

第1回

よこはま地域福祉フォーラム



ほら、  
よこはまは  
あったかい

# 「おたがいさま」の縁づくり

## 【開催報告】

### はじめに

平成27年12月11日(金)に「よこはま地域福祉フォーラム」を関内ホール・横浜市健康福祉総合センターにて開催し、約1,300名の方にご参加いただきました。

第1回目の今回は、テーマを「おたがいさまの縁づくり」とし、普段の暮らしのなかでは見えにくい身近な地域の支えあいの活動に焦点をあて、高齢者の孤立死や子どもの貧困など複数の要因をもつ新たな地域課題に対して、“新しいつながり、新しい縁”のかたちを考えるとともに、横浜市内で進められている様々な支えあい活動の先進事例をご発表いただきました。

基調講演では、中央大学法学部の宮本太郎教授に『新しい地域福祉のかたち』としてお話をいただき、その後のシンポジウムでは、地域活動者と横浜市(行政)、そして横浜市社協の三者がそれぞれの立場から、これまでの実践と今後の取組について発表を行い、横浜だからできる“支えあいのまちづくり”についての議論を深めました。



午後の分科会は、社協のネットワーク・多様性を活かし、本会で進めている「身近な地域のつながり支えあい活動推進事業」の実践や地区社協の取組、地域ケアプラザにおける地域支援、そして横浜の権利擁護のあゆみなど、6つの分科会を設け様々な視点で横浜の地域福祉を考えました。

基調講演からその後のシンポジウム、午後の分科会へと“新しい縁”の重要性がそれぞれの会場に伝わったことで、横浜においても“身近な地域の支えあい”がさらに生み出されるのではないかと期待される1日になりました。

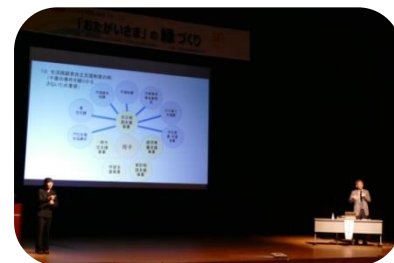


## 基調講演 新しい地域福祉のかたち ～ 孤立と排除を生まないまちづくりビジョン ～

中央大学法学部の宮本太郎教授にご登壇をいただきました。  
【新しい地域福祉のかたち】と題されたお話では「今、地域社会が一見すると大変な状況になっているけれども、私たちの考え方とか取り組み方を少し変えていくことで、見通しがだんだん明るくなっていくのでは」という投げかけから、その考え方について主に三点ほど論点を整理していただきました。



ひとつめが「支える側を支える、支えあいを支える」という考え方は。支える側、支えられる側の二分法では今の地域課題・生活課題に対応できない、という視点を事例をもとに紐解き、境界線が無くなってきた両者を総合的に支えていくために『意図的に支えあいの仕組みをつくる』ことをご提案いただきました。



ふたつめは、そのような支えあいの仕組みをつかっていくためには、本当の意味で縦割りを打破し、束ねていくことが必要であるという視点です。生活を支援する様々な制度やサービスがありますが、先生は「ネットワーク乱立症候群・ワンストップだらけ・コーディネーターが多い」とご指摘され、制度が縦割りならば、制度の外から“縦割りを活用していく視点”を持って活動を行うことも必要だとお話されました。

最後の視点は“つながり”です。先生からは「つながりが大切なことは前から分かっているが、ただ単につながっていれば良い、というものではない」とお話があり、認め、認められる関係づくり、お互いに自己有用感を持てる関係・居場所を意識的・意図的につくっていくこと＝「必要縁の創出」が地域の活力につながっていくのではないかと、というお話でまとめをいただきました。

2015年12月11日  
第1回 よこはま地域福祉フォーラム

新しい地域福祉のかたち 孤立と排除を生まないまちづくりビジョン



宮本太郎(中央大学)

### まとめ

新しい地域福祉のかたち

「支える側を支え、「支えられる側」をアクティブに  
縦割りを超えた包括的ケアへ  
「認められる居場所」とつながりの創出へ

認められる居場所が増大し幸福感や自己有用感の上昇が期待できる、  
持続可能な社会になる

「必要縁」(介護縁、子育て縁など)によって新しい社縁、地縁、家族縁へ  
地域包括ケア、子ども・子育て支援、困窮者自立支援などで新しい縁結びを

## シンポジウム 横浜だからできる“支えあいのまちづくり” ～ みんなの一步で地域をより豊かに ～

基調講演を受けて、地域活動者・行政・社協の立場から発表を行い、横浜らしい支えあいの「これまで」と「これから」について議論を深めました。

### 【コーディネーター】

- 中央大学法学部 宮本太郎 教授

### 【シンポジスト】

- 認定NPO法人市民セクターよこはま 中野しずよ理事長 【“恩おくり”でつながる「縁」】

恩おくりとは、これまで受けてきた恩をその本人に返すのではなく、他で困っている人に手を差し伸べて次の“誰か”に送っていくという考え方です。中野さんからは、地域活動をはじめたきっかけや恩おくりを通じた地域のつながりづくり、縁の広がりなどについてご紹介いただきました。

- 横浜市健康福祉局 中井邦雄地域福祉保健部長 【横浜市の地域福祉の取組】

地域ケアプラザの設置や地域福祉保健計画の展開、また災害時要援護者支援の取組など、横浜市の特徴的な福祉施策についてご紹介いただくとともに、生活困窮やいわゆる「ごみ屋敷」への対応など、新たな地域課題への取組についてご説明がありました。

- 横浜市社協 酒井正樹地域活動部長 【新しい地域支援の推進】

より小さなエリアでの福祉課題を早期に発見し、地域住民とともに考え対応していく新たな地域支援の手法として、横浜市社協が進めている「身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業」の実践を中心に、これからの地域支援の方向性についてお話をいただきました。



宮本先生



中野理事長



中井部長



酒井部長

### 分科会

午後の分科会では、本会で進めている「身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業」の実践や地区社協の取組など、6つの分科会を設け多様な視点で横浜の地域福祉を考えました。

#### 分科会1

一人ひとりの困りごとに向き合う地域づくり

#### 分科会2

地域を支える専門機関

～個別支援と地域支援の一体的展開～

#### 分科会3

よこはまの権利擁護～地域で暮らし続けるために～

#### 分科会4

地域と協働（つながる）

～社会福祉法人・施設の地域貢献～

#### 分科会5

サービスの質の向上を目指して

～地域を支える様々な視点～

#### 分科会6

新しい地域活動、はじまります

～NPO・企業・地域の協働～



第1分科会(上)と  
第3分科会(下)の様子



※シンポジウム・各分科会の内容や写真等につきましては実施報告書(冊子)にてご紹介の予定です。